

# 言語学 A 第 6 章: 言語能力と言語運用

## 1 プロトタイプ理論

問 1 「鳥」と言えば、何を思い浮かべるかを隣の人と話し合え。

問 2 図 1 を見て、自分の考えと同じかどうかを話し合え。(教科書 p. 125)

問 3 この理論から考えて、人間の言語の使い方と対象のとらえ方について、話し合え。

問 4 図 1 のような図を描くためには、「鳥」以外にどんなものを対象に調べるとよいか。

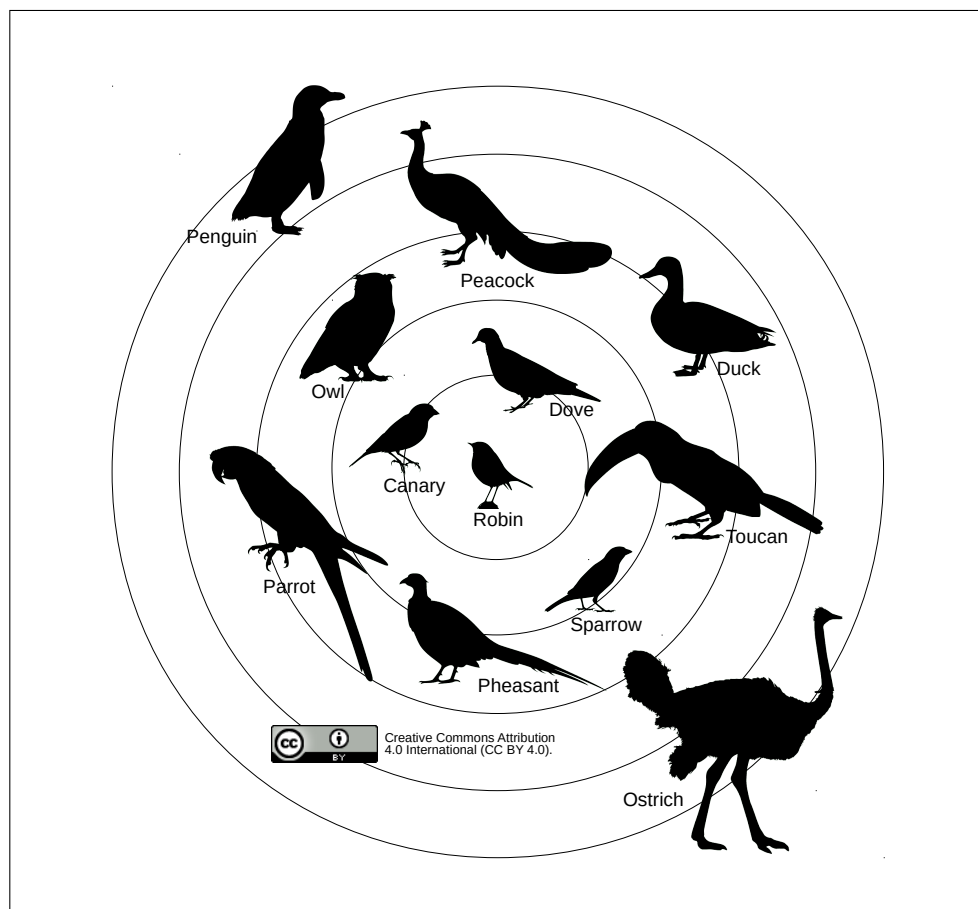


図 1: Which bird is the typical? Recreate based on (Rosch 1973, 1987)

## 2 ものの分類とことば

問 5 Labov (1973) の回答者はそれぞれを「カップ」または「ボウル」と認識し、両方の特徴を持つことが多かった。あなたならそれぞれをカップ、ボウル、花瓶と答えますか。

問 6 どんな基準で 2 者間の境界を決めますか。

問 7 2 者間のどの要素に注目するかを考えなさい。

問 8 Labov (1973) の結果である図 3 に示された文字やそれぞれの関係を解釈し、話し合いなさい。

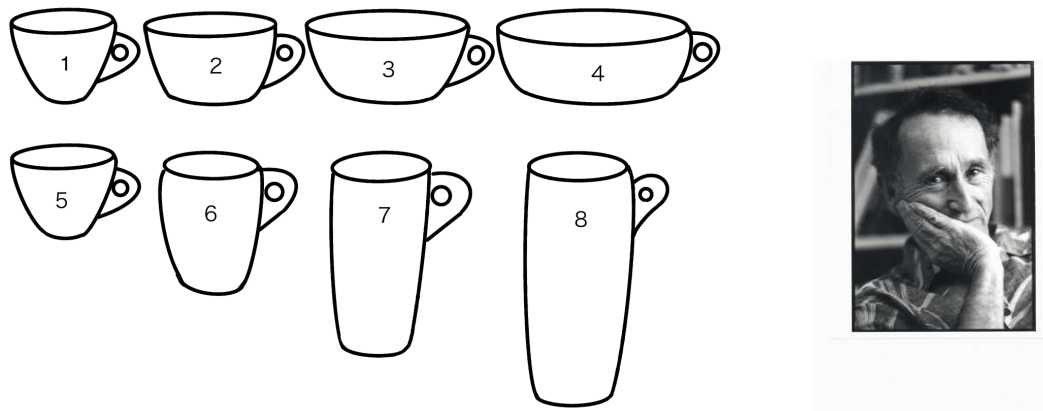


図2: どれがコップ、ボール、花瓶? (左) (Labov 1973) William Labov (右; 1927.12.4-)

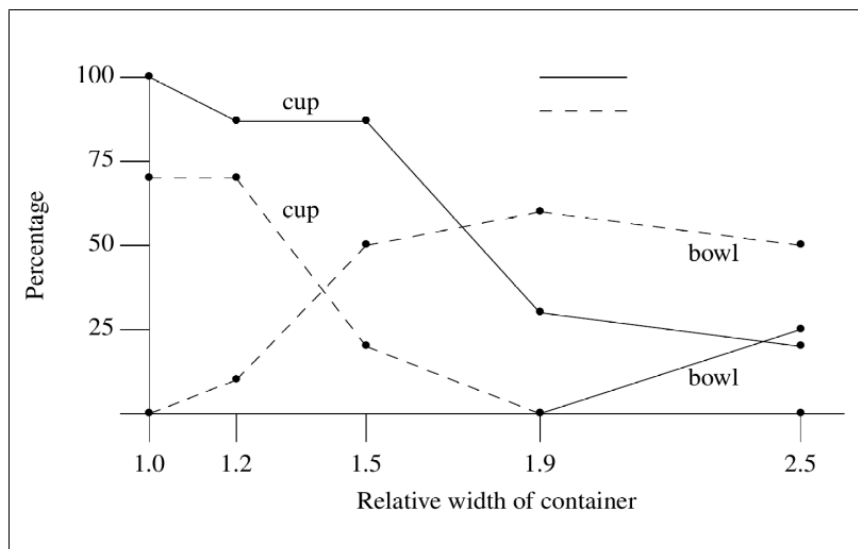


図3: 点線と実線のそれぞれの意味は何か?

問9 図3の中の点線と実線はそれぞれ何を意味するかを考えなさい。

### 3 敬語の機能

問10 次の文を読んで敬語の機能について考えよ。

#### 敬語の機能

社会言語学の考えかたによれば、上品で礼儀正しいことばづかいをする理由は、話し手自身のフェイス (face /顔/面子/体面) を保つとともに、聞き手のフェイスをも尊重する態度を表明することにあるとされている。相手を汚くするのは、相手の顔をつぶして気が済むかわりに、自分自身の人格 評価をも危険にさらす結果になる。相手が偉いから敬意を表明したり謙ったりするという説明原理よりも、このほうがずっと説得力がある (Brown=Levinson)。(小松 2013: 150); 小松の引用 (Brown=Levinson) は Brown and Levinson (1987) のこと。

問11 自分が考えていた敬語と同じ考えであるか、それ以外にどんな機能があるかを話し合え。

問12 敬語は教科書ではどのような用語で取り扱われているかを探し、話し合え。

## 4 発表

問 13 それぞれのテーマについて発表準備せよ。ペアになり、時間 5 分、2 分ずつで互いの研究を紹介し、コメントと質問を聞いて、メモを残し、提出論文の改善に役立てよ。

問 14 発表を効果的に行うにはどうすればよいかを考えよ。

## 5 試験

来週提出の試験問題の作り方を予習する。試験問題を作成し、フォーム（問題文、参照ページ、模範解答）にて送れ。試験問題提出 URL と口述試験予約 URL はいつものページに設置される。

問 15 試しに試験問題を 1 つ作ってみよ。試験問題をペアで確認し、問題とは何かを考えよ。

問 16 模範解答はその問題の正解になっているかどうか、回答可能な問題かどうかを確認せよ。

## 参考文献

Brown, Penelope and Stephen. C. Levinson (1987) *Politeness: Some universals in language usage*, Cambridge: Cambridge University Press.

小松英雄 (2013) 『日本語はなぜ変化するか: 母語としての日本語の歴史』, 笠間書院.

Labov, William (1973) “The boundaries of words and their meanings”, in Charles-James Bailey and Roger W. Shuy eds. *New Ways of Analyzing Variation in English*, Washington, DC: Georgetown University Press, pp. 340–371.

Rosch, Elenor (1973) “Natural categories”, *Cognitive Psychology*, Vol. 4, pp. 328–350.

——— (1987) “Wittgenstein and Categorization Research in Cognitive Psychology”, in Dixon R.A. Chapman M. ed. *Meaning and the Growth of Understanding: Wittgenstein’s Significance for Developmental Psychology*, Berlin, Heidelberg: Springer, Chap. 9, pp. 151–166.